

2005年8月改定

ベゴニア ドラゴンウィング・シリーズ

高温、乾燥にとっても強いタフなベゴニア。夏花壇用に高い人気！

■ドラゴンウィングは、どこにでもある、ありふれたベゴニアとはひと味違います。露地では、暑さに強い卓越されたパフォーマンスを見せ、そして実生ならではの優れた分枝と活力のある株を有します。そのタフなベゴニアは、アメリカではカリフォルニアからフロリダまで、場所を選ばず長く咲き続け、ご家庭でも造園用品種としても喜ばれるベゴニアです。

■独特の羽のように広がる草姿が、株の旺盛さをそのまま表現しています。ハンギングや大鉢に植え込むことで、さらに幅広い品種の用途が広がります。

■ドラゴンウィングは花つきのよいハイブリッド・ベゴニアで、30-38cmの充実した株張りを見せます。花も大きく、濃い特徴的な緑葉と絶妙のコントラストが強健な性質をいっそう引き立てます。

■花色は、レッドとピンク(新色)の2色。

本品種の学名: *B. x hybrida*

種子粒数: 1,000粒/グラム。ベレット種子のみ供給

発芽ステージ

プラグトレイ・サイズ

ドラゴンウィングのプラグ生産は、200穴トレイが最も適しています。このサイズですとプラグがじっくりと養生できるため、(ドラゴンウィングは斜め上に株を伸ばすので)鉢上げの際にプラグの生長方向の向きを決めやすい利点があります。もちろんもっと小さめのトレイでも生長方向は読めますが、株の大きいステージで行った方がより確実に目測できます。

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いるようにしましょう。pH5.8-6.0、電気伝導度(EC値)0.5mmhos/cm*がこの植物には適しています。ごく軽くパーミキュライト等で覆土します。

温度管理

22-24℃が発芽温度なので、この温度域を可能な限り維持しましょう。

湿度管理

相対湿度95%あるいはそれ以上を維持しましょう。

照度管理

発芽揃いには貢献しますが、発芽自体に直接的な効果はありません。

プラグ生産ステージ

温度管理

出根し始めたら、約2週間、地温21℃を維持する。3週目で地温を18℃に落とすようにしましょう。

照度管理

このステージで、日に十分当てることで健康な質の高い苗ができて上がります。最初の2週間は4,000-20,000ルクスを維持しましょう。

肥料

発芽チャンバーの場合は取出し後5日、ベンチで発芽させる場合は発芽後10日を目安に施肥を開始します。ドラゴンウィングは、通常のベゴニア(センパフローレンス等)よりも多量の肥料を必要とします。最初の2週で50ppm(N)を週2、3回、3週目からは150-200ppm(N)に上げて週2、3回ほど与えます。

矮化処理剤

プラグの段階では矮化剤による処理は必要ありません。

ポット上げから出荷まで

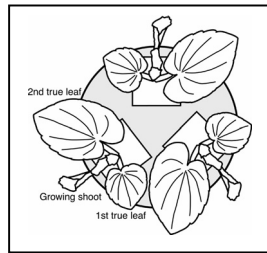
推奨されるポットサイズ

ドラゴンウィングをポット上げする際のサイズの例ですが、アメリカでは最低15cm、2本植えて出荷しています。下記はひとつの目安としてご参照ください。

鉢の大きさ	ベンチの 配置間隔	株数/鉢
14-15cm 鉢	20cm	1-2
16-20cm 鉢	20-25cm	2-3
ガロン鉢(20cm 強)	25 cm	2
バスケット (25-30cm)	—	4

ポット上げ

ドラゴンウィングをポットに上げる際は、株の生長方向を見ながら株どうしが邪魔をし合わないよう、またバランスよく植えつけることが大切です。複数の植えつけをすることで、株はバランスよく仕上がります。



プラグを植えつける際は、株からのわき芽がポットの外へ伸展するように、“方向付け”をしてやる必要があります(右上のイラスト参照)。これは木の生育を邪魔することなく、美しい草姿や花つきをそこなわないための、とても重要なポイントです。

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いるようにしましょう。pH5.4-6.0、電気伝導度(EC値)1.0mmhos/cm*がこの植物には適しています。

照度管理

ドラゴンウィングは、30,000-70,000ルクス高照度条件下でよく育ちます。日長と照度(光の強さ)が、植物の生育に大きな影響を与えます。ドラゴンウィングは、暖地であれば基本的には日長にあまり影響を受けず花をつけるので、周年出荷に対応可能な植物です。短日(8-10時間)では1-3週早く開花しますが、木が横に寝たように生育します。長日(12、13時間以上)の環境では、株は上向きの生長に変わってきます。わき芽のアーチをより上向きにしたいのであれば、ハロゲン灯よりも白熱灯を用いる方が効果はあります。垂直に近い草姿を保つことで、出荷箱に納めやすく、また一箱に入る本数も多くなります。

照度管理の1例: 出荷に備えてより上向きの株に仕立てる場合は、夜間10時から2時までの4時間の暗期中断、あるいは日没後に明期延長を行い、それを2週間ほど継続します。ただし白熱灯では株がやや徒長する可能性があるため、ボンザイ 2ppm の葉面散布で抑えると効果があります。

かん水

ドラゴンウィングはドライな条件による管理がよいでしょう。これは培地にカビや細菌を繁殖させないためにも大切なことです。しかし土を極度に乾かしてしまうと、開花が遅れたり分枝が減少したり、あるいは葉緑素の形成に障害が現れることがあるので、両方のバランスを見ながら管理します。

肥料

根が張り始めたら即、窒素値 200ppm で1週間に一度の間隔で与えましょう。

留意点: 不十分な施肥や水切れのストレスは、植物の生理に影響し、開花が遅れるので注意しましょう。

矮化处理剤

米国内の試験では、ポットに上げてから2、3週後にボンザイを 2ppm 葉面散布で効果が見られました。15cmポットの場合、最初の処理の後1週おきに 5ppm で再度、追加処理を1、2回行います。これによって節間の伸張が抑えられ、個体どうしが揃い、さらに開花も早まります。ボンザイの希釈濃度は、適正な温度と日長条件がとれているかを確認し、10ppm を限度とします。

これよりもさらに大きなコンテナで仕立てる場合でも、上記以上の追加処理は必要ありません。たとえば左上のイラストのように、矮化剤無処理の20cmポット3本仕立てでは、15cmポットの2本植えよりも分枝が旺盛で、また花つきもよかったことが確認されています(米国内の試験結果)。したがって、根を十分に張れるように培地条件を整備することが、バランスのよい草姿を作る重要な要素といえます。

栽培スケジュール

播種からポット上げ: 7-8 週

ポット上げから出荷:

2、3本仕立て(15cmポット): 7-9 週

3本仕立て(20cmポット): 8-10 週

4本仕立て(20-30cmポット) 9-11 週
が目安です

予想される一般的な生育障害

ドラゴンウィングは、もともと強健で、通常の管理であれば特定の病気にかかりやすいということはありません。殺虫剤・殺菌剤についても汎用の薬剤を数種類使用していますが、それらによる直接的な薬害については、現在のところ報告はありません。

購入後の花壇等での手入れ

ご家庭でドラゴンウィング・ペゴニアをお楽しみいただくには、水はけのよい土へ定植し、ある程度直射日光を防ぐことができる条件で育てましょう。定期的に肥料(市販のNKPを含む汎用製品)を与えることを忘れないようにしましょう。葉が茶色ないし黄色に変色するのは、概ね肥料不足の徴候なので注意しましょう。このような基本的な条件さえ整っていれば、鉢植では株は25-30cmの丈、花壇では丈が30-38cm、株張りが直径38-46cmにまで育ち、豪華な空間を作り出します。

注意点: EC値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

©2003 Ball Horticultural Company Printed in USA PAS03047 1/03
Originally issued as PAS003047 in USA, and under permission translated into
Japanese in 2005. Printed in Japan

2005年8月 改定